

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

－2024年3月12日第115号－

<目次>

●情報公開をすすめるための東京高裁での裁判の報告

■小児医療費助成制度の拡充をめざして

▲お知らせコーナー

- ① 3/16「三菱ふそう跡地に市民ミュージアムを」署名スタート集会
- ② 3/16 学習会 指定管理者制度市民のための図書館運営できる？
- ③ 3/23 映画「荒野に希望の灯をともし」上映
- ④ 3/30 ゆめシネマ・無声映画特別上映会「スージーの真心」など
- ⑤ 4/19 川崎民主市政をつくる会 春の講演会

★編集後記

●情報公開をすすめるための東京高裁での裁判の報告

東京高等裁判所での「教科書採択に関わる会議の音声データ不開示処分取消しを求める控訴審」第1回口頭弁論が、3月6日(水)午後1時30分から東京高裁424号法廷で行われました。

<控訴審に向けた市教委の対応について>

市教委は「証人により、音声データが開示されることとなると、音声データが悪用されることに不安を感じるおそれがあり、忌憚のない意見を述べることを差し控えるおそれがあることを立証する」として、現職の教育委員と元総合教育センター所長の証人申請をしていますが、なぜか当日までに申請者本人からの意見陳述書や尋問事項の提出がなく、3月1日付けで「準備書面(1)」が送達されてきたただけでした。

<口頭弁論の様子>

当日は21名の方々が傍聴に駆けつけてくださり、原告・弁護団を大いに力づけていただきました。

裁判長による、これまでの関係書面や証拠の確認の後、市教委代理人からの意見陳述が約5分間行われました。

事前の書面提出が滞った中での陳述は、横浜地裁での主張を繰返し、言訳に終始するだけの実に内容の乏しいものでした。

中でも、原審では申請すら行わなかった証人尋問を控訴に際し突然希望した理由を、「裁判所は（市教委の主張を？）理解していると判断したため尋問の申請を行わなかった。

原審が出て証拠の採用など証人の発言で確認してもらいたい。」とした言い訳そのものの発言には、思わず傍聴席から失笑が起こる有様でした。

<畑谷弁護士からの反論>

次に、原告側の意見陳述で、畑谷弁護士は

① 市教委の主張する音声データが悪用されるおそれは、抽象的なものに過ぎず法的保護に値する蓋然性がなく、また市が新たな証拠として提出した旭川市議会の事例も傍聴者の動画撮影の事例であって本件事件の事例(会議の音声データの公開)としては該当しない

② 市の主張する音声データ不開示の理由は、音声データが公文書として扱われていなかった古い考えに固執するものである

などを述べ、市教委の主張への全面的な反論を行いました。陳述の最後には、証人申請を却下し、直ちに控訴棄却の判決を下すよう求めました。

<控訴審は即日結審しました>

両者の陳述終了後に裁判長から結審が告げられ、判決言渡しの日程が 4月24日(水) 11時50分と決まりました。

これに対し市教委代理人の弁護士は、取りいそぎ意見書を提出する旨発言し、裁判長は「出されたものを見て判断する、必要に応じて審理を再開する」と応答しました。

<終了後の報告会では>

即日結審に加え控訴審であっても2ヶ月を経ずに判決が言渡されることはまずないことだそうで、それだけに原審の横浜地裁の判決が支持される確率が高いのではないかとの見通しが話されました。

しかし判決内容は聞いてみなければ分かりません。

緊張を緩めず判決日に備えたいと思います。

今後も、機会をとらえ裁判の経過をご報告いたします。

財政面へのご援助や、来る4月24日の判決を傍聴参加いただくなど、応援のほどよろしく願いいたします。

■小児医療費助成制度の拡充をめざして

<小児医療費助成制度の遅れを放置した 2024 年度川崎市予算案>

2月13日の川崎市議会開会日の「市民要求実現アクション」で、小児医療費の「一部負担金の撤廃」と「18歳までの医療費無料化」を強く求めるスピーチが行われました。

日本共産党の宗田議員は、2月28日の代表質問で、「政令市に対する神奈川県の実業費補助率は1/4と、一般市の1/3に比べて低く設定されていたが。来年度から、この格差が是正されることになり、本市も補助率1/3に上がるので、本市の小児医療費助成制度も一般市と同等の水準に引き上げなければ市民の理解は得られません。」と、小児医療費助成制度の拡充を求めました。

これに対し、こども未来局長は、全く従来通りの答弁に留まりました。(以下)

◆一部負担金につきましては、持続可能な制度のあり方を考える上では、制度を利用する方には一定の御負担をいただき、財源の確保と併せて、本制度の利益を受けない方との負担の公平性や適正な受診を担保するという視点も必要であり、それにより制度の安定的かつ継続的な運用が図られるとの認識から、維持すべきものと考えているところでございます。」

◆対象年齢につきましては、昨年9月の制度拡充により、通院医療費助成の対象を小学校6年生から中学校3年生に拡大いたしましたので、引き続き、拡充後の助成状況の分析を行いながら、着実に取組を推進してまいりたいと存じます。

<川崎市議会での追及>

3月6日の市議会予算特別委員会で、共産党の斎藤のどか議員は、一部負担金をなくした場合の財源について質問しました。

川崎市は、「中学生までの一部負担金の撤廃で、約3億7千万円。

一般財政の、0.04%」と回答しました。

これなら「制度の安定的かつ継続的な運用」は十分に可能なはずです。

次に、斎藤議員は、川崎市の医療費助成制度の遅れが、どれほど深刻かを明らかにしました。

①小学4年生から、通院1回につき500円をとっているのは川崎市だけ。(相模原市は、中学生

から高校生まで 500 円負担)

② 中学までの医療費助成にとどまっているのは、県内で 5 自治体(川崎、横浜、伊勢原、秦野、湯河原)だが、川崎以外は、窓口負担はなし。

さらに、斎藤議員は、「負担の公平性」について、川崎の子どもたちは、他自治体と比べれば少しも公平性がないことは明らかだと追及しました。

<オンライン署名とひとことカードに協力を>

福田市長は、2024 年度予算案では「どこよりも子育てしやすいまちをめざす」と、恥ずることもせず、10 年戦略に掲げています。こんな川崎市政を変えるには、市民の圧倒的な声が必要です。

川崎市子どもの医療費無料化を求める連絡会は、現在、「制度拡充を求めるオンライン署名」と、市民の声をカードに書いて市長に届ける「ひとことカード」への協力を呼び掛けています。

ぜひ、ご協力ください。→

[「オンライン署名」と「ひとことカード」は、こちらから。](#)

▲お知らせコーナー

① 「三菱ふそう跡地に市民ミュージアムを」署名スタート集会

3/16(土) 午後 6 時半から 8 時半

会場 総合自治会館第 1 会議室(武蔵小杉駅下車)

お話 安心・安全なまちづくり／市古次郎市議

主催 川崎民主市政をつくる中原区の会

[署名用紙、送り先はこちら](#)

② かわさき市民集会

指定管理者制度で市民の為の図書館運営出来る？

3/16(土) 14 時～16 時

高津市民館 12 階第 5 会議室

資料代 500 円

連絡先 090-6153-9566 (岡本正子)

[詳細はこちら](#)

③ 2023 年度地球市民講座

映画「荒野に希望の灯をともし」上映

講演 中村医師を支えた看護師 藤田千代子さん

3月23日(土)開演 12:50 国際交流センター

先着200名 参加費 1000円

申し込み 044-4355-7000

主催 かわさき国際交流民間団体協議会 後援 川崎市

[詳細はこちら](#)

④ ゆめシネマ:ピアノ伴奏付き無声映画上映会

3/30(土)

10時「スージーの真心」

14時「港々に女あり」

一般:1000円

障がい者:500円

学生以下:200円

044-433-3003 ゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

[詳細はこちら](#)

⑤ 川崎民主市政をつくる会 春の講演会

安心と希望のまちづくり～地方自治の主役はわたしたち～

講師 岡田知弘さん(自治体問題研究所理事長)

4/19(金)午後6時～8時半

会場 かわさきゆめホール(向河原駅下車7分)

資料代 300円

主催:川崎民主市政をつくる会

共催:川崎民主市政をつくる中原区の会

[詳細はこちら](#)

★編集後記

福島原発事故から13年目の一昨日、13回目の「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」が開催されました。

早春の青空のもと、主催者発表で千名をこえる市民が集いました。

能登地震や、最近の地震活動の活発化も不安で、私も、久しぶり参加し、川崎の市民運動の力強さをあらためて体験できました。

この集会は、2011年3月11日の福島原発事故から1年後の2012年3月11日に始まりました。第1回目の主催者あいさつは、次のように「未来」を語っています。

「東京電力福島第1原子力発電所の事故から1年がたとうとしています。

事故で放出された放射性物質により、いのちと暮らしをはぐくむ自然環境は汚染され、私たちは不安のなかでの暮らしを強いられています。

原発事故は、私たちが原発と共生できないことを明確にしました。

3月11日は、東日本大震災の犠牲となられた方々への追悼の日であるとともに、「原発ゼロ」へむけて、決意をあらたにする日にしたいと私たちは考えています。

あらゆる立場や考え方を越えて、「原発ゼロをめざす」というただ一点で、一人でも多くの皆さまが集える場にしたいと考えています。是非ご参加ください。」

そして、福島原発事故から13年目の一昨日、13回目の「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」が開催されました。

千名こえる方(主催者発表)が集い、「原発ゼロ」へむけて、「決意をあらたにする日」となりました。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/CMQfkBg7Xomv?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp